

## 高千穂神社：秩父杉

高千穂神社とその境内には、何世紀にもわたって聖地にそびえ立つ杉の木が茂っています。その存在は、神社の全体に感じられる自然とともに神秘的な雰囲気と調和の穏やかな感覚を付け加えます。しめ縄は、浄化と魔除けの両方に使用される稲わらまたは麻です。この神聖な縄は、古代の樹木、岩、その他の自然の特徴によく見られ、風景や町に精神的な感覚を与えます。高千穂神社の杉のような木の周りに置かれたとき、それらはこだまとして知られている精神の存在を示し、したがって伐採が禁止されています。本殿の正面の聖域の左側にも立つ、夫婦杉のようなもう1つの巨大な木は、秩父杉です。それは55メートルまでそびえ、800歳以上の樹齢があり9メートルの胴回りがあります。伝説では、12世紀の武家・畠山重忠によって植えられたと言われています。平山物語の有名な人物は、絵画や公の彫像でよく描かれています。彼は、日本の初代将軍である源頼朝によって神社に送られたときに、国を治める平和と静けさを祈るためにそうしました。興味深い歴史は、重忠が実際に2本の杉を植えたということですが、2本目は1992年の台風で倒れ、その木材は神社の神楽殿を建てるために使われました。生き残った木の名前は、神聖なスギで知られている埼玉県秩父の重忠の家由来とも言われています。